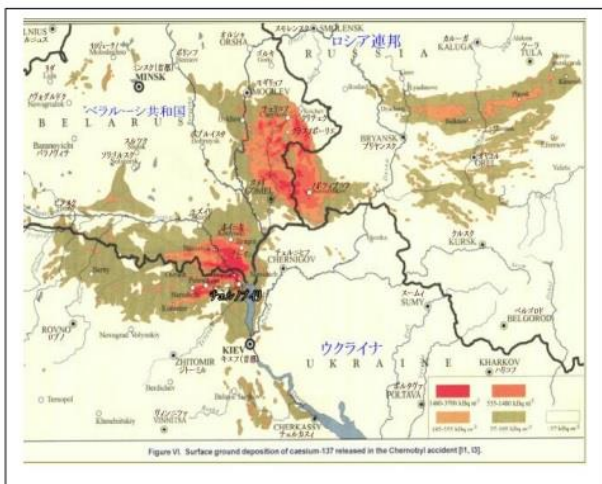


私(イリイン)の考えは、放射能汚染などの対処方は、「科学者が決めるべきこと」だと考える。どうせ、素人つまり国民には何が起こってるか、どんな被害かもわからない。ウラルの核惨事だって、秘密裏に科学者が基準を決めて処理してた。なんでもかんでも情報を公開しても混乱するだけだ。専門家に任せるべきなんだよ。もちろんソ連では内部被ばくも含めて、線量を考えてる。それなのに土壌線量派がうるさいこと言い始めた…。国民をどこまで被ばくさせるか…なんてのは。専門家が決めることなんだから…。

そして事故から3年後、ソ連の科学アカデミーの総会で、3人の科学者が断りもなしに壇上に向けあげ、ゴルバチョフ大統領に、「汚染地図のことは知ってるか」と詰め寄った。当然、撃ち殺されてもおかしくない状況だった。



グラスノスチ(情報公開)
 実は、チェルノブイリ事故の詳細を求めてもゴルバチョフ大統領にはすべての報告があがらなかったという。官僚主義の弊害が想像以上に深刻だった。
 チェルノブイリ原発事故は1986年だが、3年間、科学者たちは、土壌の汚染を実測して、汚染地図を作成していた。チェルノブイリ原発のあったウクライナ、ベラルーシ、そしてロシアの3国にわたる。
 この土壌汚染地図は隠されたまま、ゴルバチョフの手に届かなかつた。彼が質問しても「ウオッカ飲んでる間に収まりますよ」という報告があがるだけで、KGBでさえ入手できなかったという。汚染地域の国民の窮状を放置していたら国が減ぶと考えた、3国の科学者が行動を起こした。
 「ゴルバチョフ大統領は、これこそが私の求めていた情報だ」として、放射線生物学研究所をそれぞれの共和国につくった。そして…この汚染地図が国民に公開されることになり、嵐が巻きおこった。